

北海道有朋高等学校

課程 定時制
 学科 普通科
 生徒数 404名

1 取組の特徴

本校には、不登校傾向にある生徒が入学してくる状況にある。その原因の一つとして人間関係構築の力が弱いことが考えられる。また、中学校時代の不登校から立ち直れず、そのトラウマを抱え持っている生徒もいる。今回の取組として、そのようなトラウマを抱えた子どもたちの再生をトラウマチェックグロスと捉え、それを促す一つの手段として取り組んだ。

2 取組のねらい

トラウマの原因の一つとして、いじめ体験が考えられる。いじめという問題を考えさせるために、いじめ防止に関するアニメーションを作成させることで次のような効果をねらった。

- 1 「いじめは絶対にダメ」という意識を生徒に喚起させる。
- 2 いじめをどのようになくすことができるか、どのようにいじめのトラウマを乗り越えることができるかを生徒自身が考えることによって、自らのトラウマを克服させることをねらいとする。
- 3 アニメを集団で作成することを通して、不登校傾向にある生徒のコミュニケーション力の向上を図る。
- 4 アニメーションを作成しながら、ストーリー作成やパソコンの操作などを通して、基礎学力の向上等も同時に狙ったプログラムである。

<組織図>

サポート委員会

教頭2名、養護教諭2名、年次主任4名
 生徒指導部長、教務部長、該当担任で構成

サポート委員会支援方法

ガイダンス コンサルテーション
 コーディネーション プロモーション



具体的支援方法

スクールカウンセラー
 ステップアッププログラム
 若者サポートステーション
 特別支援パートナーティーチャー

⇔ 連携
 専門機関



校内研修会・職員会議・共通理解 連携 保護者

3 取組の経過

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 平成21年度
特別支援教育委員会の設立 2 平成24年度
サポート委員会の設立
ア スクールカウンセラー | <ul style="list-style-type: none"> ウ 特別支援教育パートナーティーチャー
・学習障害などが疑われる生徒の支援 エ ステップアッププログラム
・北海道医療大学の学生との共同プログラム・学習支援 オ スクールソーシャルワーカー
・経済状況や生活面での重大な困難を抱えた生徒、保護者、その担任との相談活動及び関連機関との連携 |
|---|--|

4 取組の内容

アニメーション作成

- 6月6日 富家先生(北海道医療大学心理科学部教授・本校スクールカウンセラー)による全体講義
- ・活動の目的とトラウマの克服、人間関係の構築の講義
- 6月27日 アニメーション作成の準備
- ・必要なソフトウェア・ハードウェアの調査(医療大学学生と共同)
- 7月25日、9月11日アニメーション作成の準備
- ・ソフトウェアの操作方法の研究(医療大学学生と共同)
- 10月3日 アニメーションの物語の作成
- ・物語のアウトラインの作成(医療大学学生と共同)
- 10月24日 アニメーションの物語の作成
- ・物語の読み合わせと校正(医療大学学生と共同)
- 10月31日 アニメーションの原案の作成
- ・物語の完成。読み合わせ(医療大学学生と共同)
- 11月7・21日、12月5・19・26 アニメーション作成作業
- ・場面ごとの線画の作成(医療大学学生と共同)
- 1月15・16日 アニメーション作成作業
- ・音声の入力(医療大学学生と共同)
- 1月23・30日、2月6・13日 アニメーション作成作業
- ・画像の着色作業(医療大学学生と共同)
- 2月22日 アニメーション作成作業
- ・画像・音声・音楽の合成ファイルの作成(医療大学学生と共同)
- 2月27日 作品発表



5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
今年度からの実施であり、推移は計ることができないが、参加した生徒の中で、不登校であった生徒が、積極的に取り組み、登校するきっかけになった。
- (2) その他の指標による評価
保健室利用者数及び一人当たりの欠席日数が減少傾向にある。
- (3) 子ども理解支援ツール「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況
完全単位制でクラスがまとまって活動する時間が少ないせいか、「ほっと」の「仲間作り」の項目がどの学級も落ち込んでいる。仲間作りや人間関係形成の場を多く持つことにより、その改善に取り組んでいきたい。
- (4) 生徒の変容した姿
日頃集団行動が苦手な生徒が、このプログラムをきっかけに集団の中で活動する様子が見られた。また、いじめなど人間関係の形成を考えさせるよい場となった。

2 課題

- (1) 生徒ごとに受講講座が異なり、また授業も夜21時まで連続的に行われ、放課後に活動する時間が週1回2時間ほどしかないという制約があり、生徒が一斉に集まって活動する時間が限られる。別の形態で行うことを考える必要がある。
- (2) 今年度は2年次生が中心になって行ったが、学校全体の取組みとして全年次が取り組めるよう職員全体のプログラムへの理解が必要である。

3 次年度に向けて

- (1) 人間関係作りが苦手である生徒、過去に人間関係でつまづきがある生徒が克服する方法をさらに具体的に模索していきたい。
- (2) 学習に対してもつまづきを感じて入学して来る生徒が多いことから、学習に対するトラウマの克服についても具体的に模索していきたい。